

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成 21 年 10 月 23 日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課室	教育委員会 文化財課
-----	---------------	------	------------

1 施設の概要

指定管理者	高知県文化財団	指定期間	平成 18 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
施設所在地	南国市篠原南泉 1437-1		
事業内容	1) 施設管理 高知県立埋蔵文化財センターの施設管理 2) 出土文化財等資料管理 出土文化財、図書等の資料管理 3) 広報普及事業 ア 出前考古学教室 イ 公開考古学講座 ウ 展示公開事業(企画展 I・II、巡回展、特別展) エ 情報公開事業 オ 研修事業 カ 講師派遣・市町村発掘調査指導等		
施設内容	敷地面積 4,687.58 m ² 施設 本館・北館・南館・収蔵庫(建築面積 2,083.18 m ²) 開館時間 8:30～17:30 休館日 土・日・祝祭日・年末・年始		
職員体制	指定管理者職員 6名		

2 収支の状況

(単位:円)

		19年度(決算)	20年度(決算)	21年度(予算)
収入	県支出金	60,397,193	62,171,552	68,883,000
	使用料・手数料	0	0	0
	その他	0	322,876	0
	収入計(a)	60,397,193	62,494,428	68,883,000
支出	管理運営・事業費	28,307,265	26,322,041	20,522,000
	人件費	32,089,928	36,172,387	48,361,000
	その他	0	0	0
	支出計(b)	60,397,193	62,494,428	68,883,000

3 利用状況

	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	2,182	2,561	2,800
②利用者意見等の反映	<p>埋蔵文化財センターの入館者は、展示見学者及び公開講座の参加者、発掘調査業務等の見学者、出土遺物等調査のための来館者であり、20年度の入館者は前年度比約17%の増加となった。</p> <p>学校や各種団体からの体験学習や見学会の開催についての意見が多く、古代ものづくり体験教室、親子考古学教室、先生のための考古学教室、考古学講座、発掘調査報告会、展示報告会などを実施し希望者はすべて受け入れており、展示や整理作業の見学等も加えて行っており好評を得ている。</p>		
③その他特記事項	<p>出前考古学教室は、前期と後期に分けて行った。前期は、実施校42校を決定し、合同開催も含めて30回の出前考古学を5月から7月にかけて行った。後期は実施校22校を決定し10月から2月までおこなった。前後期全体の参加人数は、2,152人で多くの子どもたちにふれあうことができた。</p>		

4 平成20年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<p>建物については、清掃・警備等再委託の承認をしており、適切な管理がなされている。設備・機器についても日常業務の中で管理点検を行っており、故障等についても、協定にそって迅速に対応している。危機管理体制も災害対策処理要綱や消防計画により緊急配備体制等を確立し対応している。</p>
②利用者サービスの維持向上	<p>事務室受付に調査員を配置し、随時展示解説を行うなど利用者に対するきめ細かいサービスを実施した。また、巡回展「発掘へんろ」の開催期間中は土・日曜日開館を行い利用者の利便を図っている。</p>
③利用実績	<p>4～7月にかけて企画展、8～10月には巡回展として四国地区埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ」、第二企画展として11～1月にかけて「道路開発で現れた遺跡展Ⅱ」、2～3月には特別展として「古代人とまつり」をテーマに展示を行った。</p>

④収支の状況	当初予算からすると、異動に伴う人件費の増で契約変更を行った。精算では、経費支出額が 586,572 円の減となった。その内訳は、人件費の時間外と事業費の需用費に残が出ており、残額については戻入してもらった。
総合評価	<p>評価委員の総合的意見では、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年 100 件近い講座・教室の実施は、特筆すべき業務実績であり、県民のニーズの高さを示すものといえよう。施設の清掃、管理も見た範囲・報告を受けた範囲では適切であった。ホームページの充実も高い評価を与えるべきであり、管理事業とも優れていると評価できる。 ・ 施設もよく整えられ、気持ちよく迎えてくれました。発掘調査が業務の主なものになるでしょうが、教育や広報活動を通じて埋蔵文化財センターの業務に対する県民の理解を得ることも大切だと思います。その点でも現状に満足せずこれまで同様に努力と工夫を継続してください。 ・ 指定管理対象の事業と調査・研究を主とするその他の事業との調整方法を長期的展望を持って検討していく必要性を感じる。成果の還元を求める声は、ますます大きくなっていくが、職員数は増えない。予算も独自財源が僅少という状況が継続すると組織の在り方そのものに矛盾が生じかねない。現在の活動が素晴らしく積極的であるがゆえに将来に若干の不安を覚える。 ・ 事業報告や年報などを見ていると、職員が埋蔵文化財の発掘、調査、記録保存に対してどれだけ高い専門性を持っているのかつぶさにわかる。こういうプロ集団無しにして、この専門事業はいい結果を出せないだろうと改めて思う。とは言っても、県民をはじめ、多くの人がさらに高いものを求めてきており、それに応じる努力は、引き続き行わなければならないと思う。シンクタンクではないが、いろんな知恵をつけてもらえる人材を持つことも大事ではないか。多くの目があればさらにいいものができると思う。

A

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの